

わが学び舎 松高小



八代市立松高小学校
学校だより
NO. 9
令和4年10月28日
文責 校長 入佐正夫

防災教育：避難訓練（火災）を行いました。



10月13日（木）に火災を想定した避難訓練を行いました。これから季節は、空気が乾燥する冬へと向かっていきます。そこで、万が一火災に遭遇した場合、自分の命を守るための行動をどのようにすべきか学びました。学校での火災避難訓練は、あくまでも学校内で火災が発生したとのシミュレーションで行うものであり、先生たちの指示・誘導で安全に避難することができます。しかし、この訓練が目指すのは、火災を起こさないことはもちろんのこと、学校以外の場所、建物で火災になった場合、すばやくそして安全にその場から逃げる方法・行動を学ぶことにあります。家庭でもいざという時に、どうするのか、どのようにして逃げるのか親子で話題にしていきたいと思います。家庭での話し合いや確認も学校で行う避難訓練の目的の一つとなります。そして何よりも大切なことは、自分の命を自分で守るために、自分一人の時にどのように判断して行動できるかを学ぶことにあります。



郷土学習を続けることの意味・大切さとは。

新型コロナウイルス感染拡大がなかった令和元年の秋までは10月の松崎神社の秋祭りや各町内の子ども神輿や獅子舞などが行われていたと聞いています。残念ながら、令和2年、3年、そして4年と現在のコロナ感染状況から以前のように学校で松高地区の郷土の伝統行事を披露することができませんでした。現在も県内のリスクレベルが1になったものの依然として陽性者は多い状況にありますことから仕方ないことだと思います。そこで、今回、学校では松高地区の伝統行事について郷土学習の形で学ぶことにしました。具体的には郷土学習保存会、松崎神社宮総代の皆さんからご提供いただいた松崎神社の秋祭りに関する資料をもとに、校内放送や各学級で映像を視聴する形で学習を行いました。このように少しでも郷土学習を継続していくことで、松高小学校の子どもたちが松高校区の伝統行事を知るとともに学ぶ心を育ててくれたらと思います。

ケガ・事故防止、コロナ感染防止は行動が大切です。

10月後半に入り、校内でのケガ、家に帰ってからの交通事故、コロナ感染増加などが続きました。また、1学期から校内での小さなケガ（擦り傷、打撲など）も毎日のようにあり、保健室で治療をする児童がいます。しかし、そのほとんどが、ケガをしなくてもいいものばかりです。ろうかや教室を走って何かに当たってケガをしたり、走る場所でないところで走ってケガをしたりしています。これはTPO（この時間 この場所で どのような行動をするのか）、つまり、当たり前のことを当たり前にすることができていないから起きていることを表しています。交通安全についても日常的に指導を繰り返していますが、事故が起きました。さらに、コロナ感染防止についても今後も感染が拡大していくことが予想されますことから学校内での感染対策をこれまで同様に継続して行っていきます。子どもたちがTPOに応じて判断して行動できるためには、毎日の当たり前を重ねていくしかありません。そして、学校では、当たり前のことを当たり前にする指導を今後とも毎日続けていきます。

